

ポスター発表の選考と投票のご報告

2010年11月の医療安全全国フォーラムに寄せられたポスター発表は、8行動目標全域にわたって84ありました。

すべての発表が、共同行動の取り組みである医療改善、事故防止活動への道筋を示すものとなっており、共同行動の到達状況を表していたといえます。このことから、共同行動の取り組みが大きく進展していることを確信しました。ポスター発表の会場を狭いと思わせるほどの多くの参加者があり、熱気がみなぎっていました。

そうした発表の中から、優秀賞の選考と、特別賞の投票を行いました。

優秀賞の選考については、選考基準のポイントとして、①他施設にとって参考となるものであること、②よい結果が表れていることの2項目を挙げました。選考方法は、各目標のポスター発表時の座長による①と②の選考基準での3段階評価による合計点数(満点6点)と、横断的選考チーム(中立的な立場の選考委員)5名の各人が同様の方法で評価した合計点数をもとに合議で決定した点数(満点6点)の両者の合計点数を評価としました。12点満点で10点以上のポスター13を優秀賞候補とし、さらにその中から横断的選考チームで検討した結果、優秀賞として京都市立病院の「行動目標1. 危険薬の誤投与防止から一当院における取り組みの経緯と活動状況について」を選考し、表彰することとしました。

選考の理由は、目標1として共同行動が提案している内容の取り組みを数多く実践し、院内でチームとしての取り組みの評価データを出しながら推進してきたことでプロセスが明瞭になり、よい結果につながっていることです。

なお、他の優秀候補のポスターも優劣つけがたいものであったことも事実です。

特別賞は、フォーラムの参加者による1名1枚の投票用紙で投票され、もっとも得票数の多かったポスターです。これは、市立豊中病院による目標8の「患者参加を求める医療安全推進週間の取り組み」が選ばれました。毎年推進週間を取り組む中で、院長を先頭に病院職員が一丸となって病院玄関で患者参加の内容を呼び掛けたということへの共感を呼んだのだと思います。

病院毎の規模や性格、制約条件は様々です。その病院にとっては容易であっても他の病院にとっては困難な取り組みもあります。共同行動は、理想とする到達点を一律に求めているわけではありません。その病院が組織的な取り組みで行動目標をガイドにして医療改善を推進している

プロセスを重視しています。今回のポスター発表は、まさしくそのことを示していました。

文責 杉山良子(2010.11 全国フォーラム目標別ポスターセッション担当、優秀賞選考委員/武蔵野赤十字病院)



参加者による投票